

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 教育学 ）	氏名	川 口 諒
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
<p>論 文 題 目</p> <p>体育教員養成課程における学生のリフレクションの実態に関する事例的研究 —他者と協働的にリフレクションする場面に着目して—</p>			
<p>論文審査担当者</p> <p>主 査 教授 齊 藤 一 彦 審査委員 教授 上 田 毅 審査委員 教授 木 原 成一郎 審査委員 准教授 岩 田 昌太郎</p>			
<p>〔論文審査の要旨〕</p> <p>本論文は、体育教員養成課程の学生を対象とし、他者と協働的にリフレクションする場面での学生のリフレクションの実態を検討したものである。具体的には、教員養成課程において実践的な経験から学習する場面として考えられる、教育実習の前に教科の指導法に関する科目で実施される模擬授業と教育実習における学生のリフレクションの実態に焦点を当て、事例的に検討を行った。</p> <p>本論文は、第1章から第4章までの4つの章で構成されている。とりわけ、本論文では、国立大学法人X大学教育学部の保健体育科教員養成課程を対象とした。</p> <p>第1章では、関連する先行研究を整理することで、本論文で取り組むべき課題を明らかにした。具体的には、教員養成課程の学生がリフレクションを通して新たな視点を得ようとする際に他者の存在が重要な役割を担うことや、本論文におけるリフレクションの概念の解釈を明確にした。そして、学生の授業に対する振り返りから着目すべき記述や発言を学生のリフレクションとして分析する必要があることを指摘した。</p> <p>第2章では、2014年度後期開講の教科の指導法に関する科目において実施された模擬授業を対象として調査した。そして、受講者のうち全ての授業に出席した同一グループの3名が模擬授業後の協議会で記入したワークシートの記述をもとにして帰納的に分析した。その結果、他者の実践を対象とした学生のリフレクションの枠組みが明らかとなり、加えて学生のリフレクションの視点が教師の行動に焦点化することが示された。また、学生のリフレクションの視点は、模擬授業に対する学生の課題意識や模擬授業で取り扱う教材の特性に影響されることが示唆された。</p> <p>第3章では、2017年度のX大学附属Y中学校における教育実習で4名の教育実習生が実施した15回の体育授業とそれらの授業後に実施された13回の協議会を対象として調査した。そして、対象とした協議会における4名の教育実習生の発話を授業者としての発話と観察者としての発話に分けて帰納的に分析した。その結果、授業者としてのリフレクションの枠組み及び観察者としてのリフレクションの枠組みが明らかとなり、加えてどちらの立場においても教師の行動に教育実習生のリフレクションの視点が焦点化されることが示された。また、授業中に詳細に生徒の様子を把握することのできる観察者という立</p>			

場の教育実習生が、授業者と協議会において意見を交流させることで、教育実習生同士の省察的な相互作用が促され、教育実習生のリフレクションの視点を拡大させる可能性が示唆された。

第4章では、総括としてこれまでの結果を踏まえて、体育授業の構造に即して学生のリフレクションの視点を拡大するための方略について言及した。具体的には、(1) 初めて模擬授業を経験する教員養成課程の初期の段階では、授業実践において表面的に捉えやすい教師の行動にリフレクションの視点が向く傾向が示されたことや、(2) 模擬授業が教師の教授技術を改善するために開発されたことを踏まえて、教育実習前の局面においては、教師の行動を中心として学生にリフレクションさせることが妥当であることを提案した。また、教育実習においては授業者と観察者という立場の違いによって、生徒についてのリフレクションの視点が異なってくることを示された。このことから、教育実習生同士の省察的な相互作用のなかで、生徒の実態を具体的にリフレクションするような指導の重要性を指摘した。一方で、今後の課題として、(1) 教員養成課程の学生が生徒の視点からリフレクションを行っていくために生徒理解が促進されるような教育実習のシステムが必要であること、(2) 学生のリフレクションの実態を詳細に検討するために縦断的な研究が求められること、(3) 他者との協働的なリフレクションをより促すための示唆を得るためにミクロな視点での協議会の検討が必要であることが挙げられた。

本論文は、次の3点で高く評価できる。

1. 教員養成課程の学生が行う授業に対する振り返りの記述や発言から、学生のリフレクションを同定し、模擬授業や教育実習における学生のリフレクションの枠組みを明らかにしたこと。
2. 立場の異なる教育実習生が協働的にリフレクションすることで、授業者だけではリフレクションの視点が向かない視点まで拡大することができた省察的な相互作用を事例的に示すことができたこと。
3. 本論文の実証的な研究の成果から、教員養成課程の学生がリフレクションの視点を拡大するための方略を、実態的構造と論理的構造の視点から示すことができたこと。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和4年2月7日